《新収資料紹介》

井手家旧蔵資料

寄贈された明治期の法律学・経済学の講義筆記をはじめとする資料群。明治24年に理財科を卒業した井手徳一氏の旧蔵資料。

専修學校

講義筆記代價幾別割引之証

明治二十年一月廿日 第九三号

法律経済學	第二年級講義筆記																				
號數	〇		一〇		二〇		三〇		四〇		五〇	
學科	法	経	法	経	法	経	法	経	法	経	法	経
一												
二												
三												
四												
五												
六												
七												
八												
九												
一〇												

此証書ヲ持參スルモノニハ毎月一部限リ時別割引ヲ以テ現金引換ニ講義筆記ヲ貸渡ス

一此証書ハ本校卒業生ト雖モ在校生徒ニ限リ交付シ貸ヲモノニ付無ヲ卒ヘ其校スルモノハ之ヲ所持スルモ無効タルベシ

井手徳一

井手家に残された講義筆記の領収書（井手修氏提供）。

井手徳一（井手修氏提供）。

井手家旧蔵資料について

明治元年（1868）８月、現在の佐賀県有田町に生まれ、明治24年に専修学校理財科を卒業した井手徳一（後に陶男と改名）氏が使用していた教科書類が、昨年７月に、徳一氏の令孫・井手修氏より専修大学に寄贈された。

今回、全94点もの教科書類を寄贈いただいたが、その多くは、明治20年７月に発行された『専修学校経済学講義筆記　第一年級第廿七号』をはじめとした、明治20年代に専修学校が発行したものである。講義筆記とは、専修学校が明治20年１月に始めた校外生制度（今で言う通信教育制度）で使用されていたテキストである。さらには、徳一氏の自筆の講義ノートも残されており、在学生である徳一氏がなぜ講義筆記を所有していたのかを含め、明治期の専修学校の教育の実態、そして学生の学習成果を知ることのできる貴重な資料群と言える。

残念ながら徳一氏は、明治24年11月、24歳という若さで夭逝した。写真は修氏から提供いただいたもので、裏には明治24年７月とあり、亡くなる４ヶ月前に専修学校卒業を記念して撮影したものと思われる。